

選挙前の配布不用意

本誌問題
談話購入
氏費購
門川公
08.9.16

市監査委 住民監査請求は棄却

京都市教育委員会が

二月の市長選前、門川大作市長の教育長時代の談話の載った市販本を公費で購入し配った問題で、市監査委員は十六日までに、公費の返還を求めた住民監査請求を棄却した。その上で、配布時期について市教委に対し「政治的中立性を保持すべき行政の行為としてはあまりに不用意」との厳しい意見を付けて

が否定できない」と指摘した。一方、本が企画から出版まで約三年

かかったことなどを挙げ、門川氏を当選させる目的は「明らかである」とも認めがたいなどととした。

市議のうち、共産党を除いて配布したことについて、監査委員は不適切と判断した。

市教委総務課の稲田新吾課長は「広報活動の一環との主張が受け入れられた。意見を踏まえ、改善すべき点は改善し、適正な広報活動に努めたい」と話した。

無関係の立場を 門川市長が強調

インタビュー本問題

門川大作京都市長のインタビュー掲載本を市教委が市長選直前に配布した問題について、市監査委員が「政治的中立性を守るべき行政としてあまりに不用意」などと批判したことに対し、門川市長は17日の定例記者会見で

「監査委員は基本的に市教委の主張を認めた上で、意見を付された。市教委が適切に対処すると思っており、私がこれ以上申し上げることはない」と述べ、自らに関係がないという従来の立場を強調した。

08.9.18